

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171400682		
法人名	医療法人社団 向仁会		
事業所名	グループホーム よろこびの家 1階		
所在地	北海道 函館市 栄町 16番 16号		
自己評価作成日	平成28年 8月 15日	評価結果市町村受理日	平成28年9月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvovsoCd=0171400682-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvovsoCd=0171400682-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成28年9月21日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは5ユニットと稀にみる大所帯です。職員の数も多く協力し合っています。また、当法人はグループホームを始め、クリニック、老健施設、有料老人ホーム、サポート付き高齢者向け住宅等、多岐にわたり、相互で情報交換や勉強会、研修等を実施し、全体で質を高め、向上出来る体制にあります。グループホームでは独自の理念を掲げ、職員全員が理念に基づいた環境作りを心掛けています。入居者様からは当然ですが、御家族様からの要望等も、その都度意見や疑問を聞きながら、その内容の経過や段階を報告し、出来るだけ意向に沿った運営が出来る様に常日頃から実施しております。近隣との繋がりにも重点を置き、町会主催の夏祭りや餅つき、町の清掃活動等イベント活動へ入居者様と共に職員も参加させて頂き、御理解や馴染みの関係作りにも努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大森浜に面して、窓からは津軽海峡のほか晴れた日には下北半島が一望でき、夜には漁り火を間近に望むことができる環境に恵まれた中に平成12年に開設された、鉄筋コンクリート造り5階建て5ユニット(定員:45名)のグループホームです。町内会主催の夏祭りや餅つき、地域の清掃活動に参加したり、小学校の生徒との交流を図りながら、地域の人々との交流に努めている。また、地域の人達の困りごとや介護についての相談等、法人の持つ機能を活かしながら地域貢献に取り組んでいる。一人ひとりの生活歴や力を活かしながら、調理の食器洗いなどの役割や買い物、町内会行事の参加、カラオケボランティアの協力を得るなどで楽しみごと、気分転換等の支援をしている。

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	よろこびの家は「自由を守ります」「プライドを守ります」「ゆとりを持ちます」「思いを大切にします」「分かち合い共に行きます」との理念を共有し全職員で実践に向けて取り組んでいます。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくりあげ、ユニット毎の会議や日常業務を通じてその理念を共有し、実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の催し物や小学校の行事等に参加し地域との交流に努めている。また馴染みのお店で買い物する等利用者の希望に応じた対応を行っている。地域の清掃活動や花植え活動にも積極的に参加している。	町内会主催の夏祭りや餅つき、地域の清掃活動に参加したり、小学校の生徒との交流を図りながら、地域の人々との交流に努めている。また、地域の人達の困りごとや介護についての相談等、法人の持つ機能を活かしながら地域貢献に取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事等に利用者と一緒に積極的に参加しより多くの方に理解して頂けるよう努めている。また運営推進会議を通じて、グループホームの運営や認知症等の情報発信をさせて頂いている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に一度開催している。その場で寄せられたご意見やご要望を参考にさせて頂き、議事録を作成し全職員で共有している。	年6回を目安に運営推進会議を定期的開催して、地域ボランティアへの働きかけや事業所の取り組み状況など具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かすよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に運営推進会議に参加して頂き、事業所の実情等について説明させて頂いている。事業所の運営や手続き等適宜問い合わせを行い、ご指導を頂いている。	日常業務を通じて情報交換や助言を得ながら、市担当者や包括支援センターと協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を中心に周知徹底し指導を行っている。玄関の施錠を含めて防犯意外において身体拘束をしないケアを行っている。	身体拘束廃止委員会が中心となって、指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を内部研修会を開催して正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修等を通じて虐待防止について学ぶ機会を設けている。また、虐待を見逃ごす事が無いよう注意をはらい防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用させている入居者様は現在おられないが今後の必要性の応じて提供できるよう勉強会等を行って行く。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様やご家族様には納得して頂けるよう十分な説明を行い、疑問点や質問等も都度確認しながら契約、解約を行わせて頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見箱の設置や苦情相談窓口があり、意見や要望があった時は担当者だけではなく全職員で原因や改善策を話し合っている。	苦情等の申し出先である第三者機関の相談窓口等を見やすい場所に掲示している。また、家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように苦情等の受付箱を設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週間報告書を作成する際に職員からの意見や希望・要望を聞き、管理者会議で話し合い運営に反映出来る体制が整っている。	管理者会議やユニット毎の会議で、職員の意見や要望、提案を聞く機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は個人の努力や実績が給与に反映され、職員がやりがいを持って働けるよう常に向上心を持って働けるよう職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会や講習会の案内や掲示し、参加希望の職員には勤務調整等を行い参加しやすい環境になるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	南北海道連絡協議会へ属しており、研修への参加、同業者との交流の機会を設け、情報交換を行うことによりサービスの向上に努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期の段階からご本人が困っている事や要望、思いをに耳を傾けて安心して過ごして頂けるよう関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用前からご家族様の不安や心配事、要望をお伺いし一緒に検討しながら解決していく姿勢を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様に関する情報を的確に判断し、何を必要としているかを見極めその方にあった支援が提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の人間性やその方の生活を尊重し、職員は人生の先輩である利用者様から学ぶ姿勢を持ち、生活を共にし一緒に支えあう関係を築けるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の日常生活の状況は都度ご家族様に報告を行い、希望や要望は出来る限り取り入れ共に支えていく関係を構築できるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から通っている病院や美容室等に引き続き通えるよう支援を行っている。	町内会主催の夏祭りや餅つき、地域の清掃活動に参加したり、買い物や散歩等を通じて馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時間、お茶の時間等利用者様同士が自由に交流を深めている。また利用者様が人間関係においてストレスにならないよう配慮を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院や他施設への転居後でも、利用者様やご家族様へ面会させて頂いたり、お手紙のやり取りをしたり交流させて頂いている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしや言葉や態度から思いを把握し、職員間で共有しながら意向に添えるよう心掛けている。困難な場合はご家族様の意向や生活歴等から本人本位の検討を行っている。	生活歴の把握やアセスメントを通じて、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には利用者様、ご家族様と面談を行い計画作成担当者がフェイスシートへ生活歴、既往歴をなるべく詳細に記入し馴染みの生活が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の何が出来るかに目を向ける事が出来る様、毎日の生活、過ごし方、身体状況を介護記録や温度板に記載し現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス会議・モニタリングを定期的に行い、必要な関係者と話し合い、利用者様がより良く暮らして頂けるよう現状に即したケアが出来るよう計画作成担当者が介護計画を立てている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見や希望、カンファレンスやモニタリングで職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、介護計画と連動した記録の残し方の共有に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各入居者食事量、水分量、排泄状況等を介護記録に記載し全職員で共有し、職員の気づきや工夫・取り組等をケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族様の状態や状況に応じて外出・買物・受診等のニーズに柔軟にサービスが出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会主催のイベントや行事に積極的に参加させて頂き、ご本人の意向や必要に応じて安全に活動が出来るように配慮している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様、ご家族様の希望を大切にし、かかりつけ医をお持ちの入居者様には継続的に受診・相談が行えるよう配慮している。	往診や通院等への送迎、日常の健康管理等で適切な医療を受けられるように支援している。また、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、看護師による健康管理が行われ医療面での適切な指示・助言を頂いている。24時間体制である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要になった際は、入院先の病院関係者や主治医と常に連携を取り、入院中でも不安なく過ごせるよう、また退院後も安心して過ごせるように連携を取っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に向けた対応や希望については、必要以前からサービス担当者会議を開催しご家族様や利用者様が最期まで安心して希望通りの生活を続けられる様に取り組んでいる。	早い段階から本人・家族等と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら、指針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルが完備されており、また職員の勉強会、研修会を開催して各ユニットで話し合い適切な判断・対応が出来るように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員の立会いのもと、年に2回昼間夜間を想定した避難訓練を実施しております。火災報知機の点検を定期的に行い、マニュアルを整備しあらゆる災害に応じた心構えが常に持てるように訓練を行っている。	消防署の協力を得ながら昼夜を想定した年2回の避難訓練を実施している。また、緊急時に備えた非常食の備蓄もしている。	今後は、年2回の避難訓練以外にも個別に勉強会を開くなど災害発生時の対応を職員間で情報共有するよう検討しているので、その実践に期待します。

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対しての言葉遣いや声掛けには十分に気を配るよう、尊厳を持った対応が出来るよう職員間で周知している。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように内部研修会を開催して、職員間に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望を尊重し自己決定が出来るように努めている。着替えの際等の声掛けに十分配慮し好きなものが自分で選べる、決定が出来るよう配慮を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	食事、トイレ、就寝等あらゆる場面で利用者様一人ひとりのペースを大事にし、希望や意向に合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理美容や馴染みの美容室を希望に応じて利用できるように支援している。意思表示が難しい方でも季節に合ったものやご本人様が選んだ服装を着られるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に準備や片付けを行い、共に同じ食事を食べている。食事が楽しい時間になるようにお話しながら召し上がって頂いている。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、調理の準備や後片付け、食器洗い等を職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、外部管理栄養士により献立を作成しており、介護記録、温度板を活用し、水分摂取量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でケアが出来る方へは自立支援の為、見守りのみ行い忘れては、出来なかったときのみお手伝いを行っている。ご自分で出来ない方は、ご本人の心境に配慮し、お手伝いさせて頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介護記録を活用してそれぞれの排泄パターンを把握し、定期的にトイレ誘導及び声がけをしている。排泄パターンを把握することにより失敗を減らし、ご家族様への負担軽減に努めている。	一人ひとりの生活歴や排泄パターンを把握して、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護記録や健康管理表を活用し、全職員が利用者様の排便状況を把握し、便秘予防に努めている。便秘症の利用者様へは、医療機関と連携し便秘症緩和へ努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	基本の入浴時間は大まかに定めているものの、入浴の時間には制限を設けず、出来る限り好きな時間に入浴できる環境づくりに努めている。	入浴拒否の強い、ご本人にも柔軟な入浴支援をしている。また、入浴の時間帯の制限はなく、一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様は好きな場所で休息を取られており、ゆっくりと寛げる環境づくりをしている。また、日中の眠りすぎによる昼夜逆転現象を防ぐ為、レクリエーション等適度な運動を取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認表や個人ファイルを活用する事により、入居者様の服薬状況を全職員が把握し、その方に合った、用法・用量を守れるように見守り、介助を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った家事支援・レクリエーション等を提供して様々な場面で喜び楽しめる生活が送れるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に合わせて近隣への買い物やドライブなどの付き添いをさせて頂いている。ご家族様や地域の方々との協力しながら、気軽に外出出来るよう支援している。	一人ひとりのその日の希望にそって、町内会のお祭りや清掃活動参加、買い物や散歩など戸外に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理出来る方には自己管理して頂いている。出来ない方は、管理者の管理のもと預り金から使用して頂き必要なものが購入出来るよう配慮を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話のお持ちの入居者様は自由にご家族様との連絡をとられている。手紙に関しては希望により代筆、発送の代行も対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられるよう展示物を変更したり、窓を開放して換気をしたりしながら暮らしやすい環境が作れるように配慮を行っている。	大森浜に面して、窓からは津軽海峡のほか晴れた日には下北半島が一望でき、夜には漁り火を間近に望むことができ、共用空間は広く、清潔感が漂い、居心地よく過ごせるような工夫をしている。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファを色々な場所に設置し個々の入居者様がお好きな場所で談話されたり、本を読まれたりと思いに過ごせる事が出来るよう空間づくりを行っている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の使い慣れている物を使っていただけける様、ご家族へお願いしており、居心地の良く過ごして頂けるように努めている。	居室には、使い慣れた家具が持ち込まれたり、家族の写真等が飾られて、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの他、掴まり歩きが出来るよう手すりが配置され、歩行困難の方の為に居室にはポータブルトイレを配置し安全な生活が出来るよう努めている、		

### 目標達成計画

事業所名 グループホームよろこびの家1階

作成日: 平成 28年 9月 23日

#### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	35	1階は、災害発生時に担当する行動が多く、全職員が把握しきれていない。訓練時に戸惑いが見られている。	事業所の職員は、どの階の職員であっても全ユニットの災害時マニュアルを把握し、災害発生時には滞りなく職員同士でフォローし合えるようになる。	年2回の避難訓練以外にも個別に勉強会を開くなど災害発生時の対応を職員間で情報共有を行う。各階の管理者以外にも各ユニット1名は全ての災害対策を把握する職員を作っていく。	2年
2	8	利用者様の中には生活保護受給者が多くいらっしゃるが、職員は生活保護や成年後見人制度に関する知識が乏しい。	生活保護法や成年後見人制度に関する知識を共有し職員一人一人が利用者様の権利擁護について考える事が出来る様になる。	成年後見人制度や日常生活自立支援事業、生活保護に関する勉強会、研修会を開催し職員の理解を深め日常のケアに役立てていく。	2年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171400682		
法人名	医療法人社団 向仁会		
事業所名	グループホーム よろこびの家 2階		
所在地	北海道 函館市 栄町 16番 16号		
自己評価作成日	平成28年8月15日	評価結果市町村受理日	平成28年9月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0171400682-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0171400682-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成28年9月21日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは5ユニットと稀にみる大所帯です。職員の数も多く協力合っています。また、当法人はグループホームを始め、クリニック、老健施設、有料老人ホーム、サポート付き高齢者向け住宅等、多岐にわたり、相互で情報交換や勉強会、研修等を実施し、全体で質を高め、向上出来る体制にあります。グループホームでは独自の理念を掲げ、職員全員が理念に基づいた環境作りを心掛けています。入居者様からは当然ですが、御家族様からの要望等も、その都度意見や疑問を聞きながら、その内容の経過や段階を報告し、出来るだけ意向に沿った運営が出来る様に常日頃から実施しております。近隣との繋がりにも重点を置き、町会主催の夏祭りや餅つき、町の清掃活動等イベント活動へ入居者様と共に職員も参加させて頂き、御理解や馴染みの関係作りにも努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

## V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念については職員が毎日必ず確認できるようにGHの理念を掲示し確認して頂いているほか、事故防止や認知症への対応心得を掲示し職員が同じ理念を共有して実践に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会主催の行事(夏祭りや餅つき等)参加以外にも月1回以上回覧板を回したりゴミ拾い等町会主催の催しに参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に運営推進会議で議題として取り上げ、認知症という病気のことから介助の仕方等細かなことまで説明・参加して頂いた方に実践して頂き、理解を深めて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度のペースで運営推進会議を開催しご家族や地域の方々、市町村担当者、包括支援センターの職員など幅広く参加して頂いており、意見交換させて頂きサービスの向上へ繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各ユニットの管理者が連携をとり、市町村担当者と連絡を密にとることによってケアサービスの取り組み方やその他情報を共有し、アドバイスを頂けるよう努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては毎月身体拘束廃止委員会にて会議を設けており身体拘束廃止に取り組んでいる。又その場で事例検討を各施設持ち寄って話し合い活かしている。当施設では防犯の為、やむなく玄関に暗証番号式のロックを掛けているがご家族様に説明の上、ご理解を頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会にて身体拘束及び虐待防止について話し合われる場を設けている。各施設1名所属しており会議後、ユニットに持ち帰り再度話し合われている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	前年度では運営推進会議において成年後見人制度について御家族様と一緒に学ぶ機会を設けましたが、現在希望者は特にいない状態である。必要と思われる利用者様に関してはご家族も交え検討や活用を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居の際は管理者及び入退居担当者にて当施設のコスト面や生活の中での質疑応答をさせて頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回のサービス担当者会議を行い、利用者様・ご家族様の希望を個別に対応するだけでなく、玄関への投書箱の設置、随時、質問や意見は該当階もしくは苦情処理窓口を届け対応させて頂いている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回、各ユニット週間報告として話し合いの場を設けているが、それ以外にも随時話を聞いたり、インターネットシステムにて伝言を残して頂き意見・要望を伝えている。更にその案件を管理者会議にて議題として取り上げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	所属する管理者よりその職員のやる気や能力・勤怠面にて代表者に賃金面を提案させて頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加は各管理者に任されており、管理者研修や実践者研修は研修を受ける予定の職員の履歴書や能力等、代表者へ提案・受理して頂く体制となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	特に代表者は関わってないが連絡協議会の中で同業者との交流機会や事例検討等行われている。相互訪問の件も連絡協議会で一度話し合われたが行われていない。南北海道連絡協議会へ属しており、研修への参加、同業者との交流の機会を設け、情報交換を行うことによりサービスの向上に努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ずご自宅もしくは入所されている施設に赴き御本人様の意見や不安を聞かせて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、入所前に御自宅もしくは当施設にて話し合える場を設けさせて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に入退居担当者及び該当階管理者もしくは計画作成担当者と御本人様・御家族様で話し合える場を設けさせて頂き、他のサービスの話や今後の方向性について話し合せて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	サービス提供者という事を忘れず擬似家族という面で共に生活させて頂き、同じ時間を過ごさせて頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活に関して定期的にご家族へ報告しており、共に病院受診や行事への参加を促させて頂き共に時間を過ごして頂ける様心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院や美容室、昔からの友人・知人等との関係が切れない様、職員側で勝手に決めず入居者様・御家族様と話し合いながら共に決めさせて頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室にこもりがちな入居者様もいるのでその人の意志を尊重しつつ孤立せぬようサービス提供させて頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した、契約が終了したからでは終らない関係を作るよう努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人様・御家族様の希望をまず入所時に聞き、その都度意思を尊重しつつ生活して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に必ず入退居担当者と御家族・御本人を交え情報提供して頂き、当施設での生活に役立たせて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	随時、何か状態変化や有する力を発見した際、インターネットシステムを利用し職員間で情報の共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	最低年1回や大きく状態の変化があった際等ご本人様の生活に関係のある方、皆さまにご足労頂き会議の場を設け、そこでの情報を基に職員間で話し合い介護計画書を作成・提供している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの結果を個別記録に記入し、又インターネットシステムを有効に使い職員間の情報共有に努めている。それを基にカンファレンス・モニタリングに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調の変化や希望があった際はその都度、カンファレンスを行い新たな介護計画を作成・実践・評価している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	暖かい時期などには施設前の海沿いを共に散歩したり、町会主催の花植え等に参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様が昔から掛かっているかかりつけ医や医療機関を利用して頂いている。週に1回、医療連携看護師による健康管理をおこなっており、随時相談や助言を求める事ができる。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制は24時間確保されており、週に1回、看護師訪問により健康管理、相談を行っている。看護師からは医療面での適切な相談・助言を頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は担当医もしくは担当看護師と情報交換を行い御家族様を交え今後の方向性について話す場を設けさせて頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	御本人様・御家族様よりターミナルケアを希望された際、主治医・医療連携看護師・御本人様・御家族様を交え今後の方向性について話し合いをする場を設けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを各階に配置しており、勉強会、研修会を開催して各ユニットで話し合い適切な判断・対応が出来るように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員の立会いの下、年に2回昼間夜間を想定した避難訓練を実施しており、災害の際には迅速に避難できる体制を整えている。平時よりも近隣住民の協力が得られるように連携を図り、協力体制構築に努めている。		

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人その人の性格や羞恥心に配慮しつつ声掛けやサービス提供を行っており、御本人様の意思を最優先にケアさせて頂いている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物や食事の内容、入浴とあらゆる場面で職員側で勝手に決めず自己決定して頂ける様声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	当ユニットでは自己決定・自己主張される入居者様は少ないが職員側から声掛け等行いその都度何を行うか決めて頂ける様に生活して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理美容や馴染みの美容室を希望に応じて利用できるように支援している。季節にあった服装、ご本人が選択した服装を着られるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は入居者様・職員共に同じ物を食べ、味付けや季節の食材についてお話させて頂きながら食事の席に着いている。準備や後片付けは共に行わせて頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、外部管理栄養士により献立を作成しており、介護記録、温度板を活用し、水分摂取量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	御本人様の意思を尊重しつつ口腔ケアの声掛け・一部介助をさせて頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的にトイレにお誘いし、トイレで排泄して頂ける様、記録等を用いて排泄リズムの把握、更に御家族様へのコスト削減に努めさせて頂いている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物での工夫は入居者様方の嗜好に配慮しつつ食物繊維の多い食材を取り入れるよう心掛けている。運動面でも御本人様の意志により出来ていない状態であり服薬に頼らざるを得ない状態である。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	随時声掛けをさせて頂き御本人様の希望を聞かせて頂いてから入浴の準備に取り掛かっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様のその都度の様子や希望を尊重しつつ声掛けさせて頂き休息されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認表や個人ファイルを活用する事により、入居者様の服薬状況を全職員が把握し、その方に合った、用法・用量を守れるように見守り、介助を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所前から随時、情報提供・共有に努めその人らしい生活を送れる様サービス提供させて頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その都度、入居者様から希望が聞かれた場合、職員間で協力し合い外出している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は、預かり金制度を制定し管理者と事務員により事務所金庫で管理している。使用時は管理者、職員付き添いにてトラブルの無い様にお手伝いをさせて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様やご本人様の希望により、居室内に電話を設置している。また、各階の電話の使用にも制限は設けておらず自由に掛けられるように対応している。手紙に関しても希望により代筆、発送の代行も対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節ごとの模様替えを行ったりして味わって頂いている。又、照明や物の配置に気を配り落ち着いて生活して頂ける様気配り・心配りをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長椅子や一人用椅子を各所に設置したり、ホール奥に畳のスペースがありそこで横になったりテレビを見たりと自由に過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前にダンスやテーブル等、馴染みの物の使用を御本人様・御家族様に承諾頂き、昔から過ごしていた同様な空間作りに活かしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	当施設はバリアフリー・手すりが完備されておりできる限り自立した生活を送られる様整えられている。又、新聞等出切る限り同じ場に同じ物を置き自立支援に利用させて頂いている。		

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム よろこびの家 2階

作成日: 平成 28 年 9 月 23 日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	38	日々の支援において、入居者様のペースを大切にしたい、ゆとりある支援に全職員一丸となって行いたい、職員側の都合にあわせた支援の傾向になりがちである。	ご本人の思いや希望を大切にしたい、ゆとりある支援を行いたい。	家庭的な雰囲気を常に心がけ、季節感や生活観を味わえる空間・環境づくりを行い、入居者様と職員が共に心豊かな時間を共有できるように思いを大切に過ごしたい。	1年
2	3	入居者様が住みよい地域を目指す為、近隣住民や地域の人々に向けて、発信し行かせる活動が不足している。	認知症の人の理解や支援の方法を、ご家族様・市域の人々に向けて、知っていただく。	・運営推進会議の開催において、より多くのご家族様や地域の方々に参加して頂ける様、工夫する。 地域で行っている催事(祭りや町会活動)には積極的に参加していく。 ・いつでも気兼ねなく立ち寄って頂ける工夫をする。	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。